

廿日市市宮島水族館
運営計画書

平成 22 年 4 月

令和 4 年 8 月一部改正

目 次

第1	運営計画書の位置付け.....	1
第2	本事業の目的.....	1
第3	基本理念等.....	1
1	基本理念（コンセプト）.....	1
2	将来に「ありたい姿」.....	2
3	運営方針.....	2
第4	活動方針.....	3
1	瀬戸内海国立公園の中心にある水族館.....	3
2	文化・教育活動の場としての水族館.....	3
3	観光振興と地域経済へ貢献する水族館.....	3
4	種の保存や環境保全のための調査研究.....	3
5	環境学習・教育の場としての水族館.....	4
6	多様な主体と協働・連携する水族館.....	4
7	ふれあいといやしを提供する水族館.....	4
第5	施設管理方針.....	4
1	管理対象施設.....	4
2	名称等.....	5
3	営業日及び営業時間.....	5
4	入館料等.....	5
5	入館者数の予測.....	6
6	入館管理.....	7
7	収支計画.....	8
第6	運営.....	9
1	基本方針.....	9
2	運営組織.....	9
3	円滑な運営体制の構築.....	11
4	業務の分担.....	12
第7	連携・協働.....	13
第8	具体的取組.....	14
1	展示計画.....	14
2	飼育・調査・研究計画.....	27
3	教育・環境学習計画.....	28
4	オープンに向けた取り組み.....	29
5	オープン後の運営に関する取り組み.....	31
第9	運営方針との対比.....	34

第1 運営計画書の位置付け

本運営計画書（以下「本書」という。）は、廿日市市新宮島水族館（仮称）（以下「新水族館」という。）事業（以下「本事業」という。）の運営に関する方針を示すものである。

本事業の運営にあたる者は、第2 本事業の目的に示す「文化・教育活動の場としての水族館」と「観光振興と地域経済へ貢献する水族館」の達成に向け、本書の方針に基づき、具体的展開を図るものとする。

第2 本事業の目的

「宮島」の価値は、太古から「神の島」としてあがめられてきた原点である自然と、そこに暮らした先人が創り上げた文化と歴史であり、これらは未来においても普遍的なものである。その「自然・文化・歴史」にふれることで、宮島を訪れた人々は日常の喧噪から解放され、心がいやされる。宮島は、島全体が「いやしとふれあいの空間」となっている。

その宮島にあって水族館は、宮島・瀬戸内海とその周辺を中心に、「水」「文化」「自然」などをテーマとして、水族館を訪れる人々に水生生物とのふれあいなどを通して感動とやすらぎを提供するとともに、文化、教育活動の場としての役割を担うものである。

また、国際観光地「宮島」の新たな顔として、集客力と収益性の向上を図り、市全域の「観光振興と地域経済の活性化に寄与する施設」であることも期待される。

そのため、本事業を実施するにあたっては、「いやし」と「ふれあい」をコンセプトとして、民間事業者のノウハウの活用による効率的な施設整備と維持管理及び、入館者に対して魅力的で良質なサービスの提供を図り、「文化・教育活動の場としての水族館」と「観光振興と地域経済へ貢献する水族館」を具現化することを目的とする。

第一に瀬戸内海の中心にある水族館として、第二に世界文化遺産の地に存在する水族館として、明確なアイデンティティー（個性）を持つ施設・展示をめざすものである。

第3 基本理念等

事業目的を達成するための基本理念等を次のとおり定める。これらは、本事業に取り組むすべての組織及び関係者が持つべき共通の価値観として位置付けられるものである。

1 基本理念（コンセプト）

『いやし』と『ふれあい』

宮島は、島全体が「自然・文化・歴史」を基調とした「いやしとふれあいの空間」である。その中にある水族館として、その役割を担うものである。

2 将来に「ありたい姿」

『瀬戸内海、そして世界遺産と共生する水族館』

宮島の価値である「自然・文化・歴史」は、「世界文化遺産」登録の原動力であり、また、宮島の魅力として人々を魅了し続け、求心力となって、多くの人を惹き付ける。

その地にある水族館として、宮島・瀬戸内海にこだわりを持ち、前面の海と背後の山をフィールドとする恵まれた立地環境を生かした、地域に密着した個性ある水族館を実現させることで他施設との差別化を図り、宮島らしさを創造する。

また、廿日市市新宮島水族館（仮称）整備事業（PFI事業）で掲げた、「顧客満足度（体感度）ナンバーワンの水族館」、「魅楽来類な水族館」は、ありたい姿を支えるための重要な指標として、忘れてはならないものである。

※共生：共生とは、人間を含む異種又は同種の生物間の関わりを表現するときに用いられるが、水族館は、世界遺産「宮島」、瀬戸内海に生息する「いのち」を伝える館であることから、敢えて「共生」と表現する。

3 運営方針

「ありたい姿」を実現するための運営方針として、次の5つを掲げる。

これらを、新水族館の特色として実践することは、宮島の新たな魅力、求心力となる。

●もう一度行きたくなる「体感の水族館」

訪れた人々が宮島水族館ならではの魅力を体感することで、多くのリピーターが訪れる施設とする。

●いつも新しい発見ができる「学びの水族館」

訪れるたびに何か新しい発見と体験があり、訪れる人々に学びを通して楽しみを提供する施設とする。

●温かく出迎えてくれる「ぬくもりの水族館」

国内はもとより、世界各地から宮島（水族館）を訪れる観光客（来館者）に「おもてなしの心」をもって接し（ふれあい）、宮島（水族館）を訪れた人々に、ぬくもりと楽しさを提供する施設とする。

●新たな活力を創出する「集いの水族館」

宮島の観光に新たな活力と魅力を創出し、その魅力を世界にアピールして、人々が集い交流する施設とする。

●美しい自然と共生する「独自性のある水族館」

「瀬戸内に浮かぶ島（宮島）」、「世界遺産を有する島（宮島）」にある水族館として、宮島の美しい自然と豊かな文化・歴史と共生した個性的で独自性にあふれた、他に類を見ない施設とする。

第4 活動方針

新水族館の事業目的や基本理念などを踏まえ、新水族館の管理運営を進める際に大切にすべきことを活動方針として示す。

1 瀬戸内海国立公園の中心にある水族館

瀬戸内海国立公園は、昭和9年に国内初の国立公園として指定を受けた。その中心にある水族館として、瀬戸内海の自然を伝えることが使命のひとつに掲げられる。

瀬戸内海に生息する水生生物を中心とした展示や、宮島水族館のシンボルである希少生物のスナメリの飼育・繁殖をはじめ、広島県に生息する希少生物の水生生物の調査・研究、ボランティアとの連携による干潟観察会の実施などの活動を通して、宮島・瀬戸内海とその周辺の自然、それらを取り巻く環境などを伝えていく。

2 文化・教育活動の場としての水族館

新水族館は、瀬戸内海の中心にある水族館として、水生生物の学習の拠点であることが求められる。

そのため、宮島・瀬戸内海を中心とした水生生物や広島県に生息する淡水系の希少生物を基本とした飼育・展示を行うが、その一方で、瀬戸内海に生息する水生生物との違いなどを伝えることを目的として、国内、そして世界的視野による水生生物の飼育・展示も行う。

このことにより、水生生物及び水生生物を取り巻く環境を楽しく学べる施設とする。

3 観光振興と地域経済へ貢献する水族館

新水族館は、国際観光地「宮島」の新たな顔として、集客力と収益性の向上を図り、観光振興と地域経済の活性化に寄与する施設であることが求められる。

そのため、国内はもとより、世界各地からの利用に対し、水族館を訪れることにより「宮島」の自然・文化を体感してもらえる展示を行い、水生生物とのふれあいなどを通して「宮島」ならではの感動とやすらぎを提供する。

また、入館者に水族館の魅力を堪能してもらうだけでなく、他の観光施設との連携や宮島の紹介などを通して、滞在時間の延長と地域経済へ貢献する。

4 種の保存や環境保全のための調査研究

公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「日動水」という。）の会員として、その基本理念に即して旧水族館がこれまでに展開した種の保存や環境保全に向けた活動を継承し、さらに発展させていく。

また、スナメリの人工飼育下において世界で初めて第三世の繁殖に成功した実績を踏まえ、さらに飼育技術のスキルアップを図りながら、国内水族館のリーダー的存在としての活動を展開する。

5 環境学習・教育の場としての水族館

特に近年、環境への関心の高まりは大きなものとなっている。水族館においても、水生生物の飼育・展示を通して、環境についての学習や教育が求められるところである。

これまで旧水族館では、干潟観察会の実施や絶滅が危惧されている生物、希少性の高い生物の種の保存活動等を通して、自然保護・教育活動に力を入れてきたが、新水族館においても、瀬戸内海とその周辺の豊かな自然環境の保護に向け、地域特性を最大限に活かした環境学習・教育を行っていくものである。また、その活動の場は水域にとどまらず、海岸線からモミが群生する全国でも珍しい植生地である大元公園に近接する立地を活かし、海から森へと広がるものである。

6 多様な主体と協働・連携する水族館

新水族館は、市民はもとより県民の生涯学習の拠点としての役割を担うものである。地域の学校や市民センター、大学、研究機関、さらにはボランティア団体など、多様な主体との連携により、魅力の充実化を図る。

7 ふれあいといやしを提供する水族館

入館者に、参加・体験の機会をより多く提供する展示手法を取り入れ、飼育・展示生物との「ふれあい」が「いやし」となる空間を演出する。

この飼育・展示生物との「ふれあい」は、「いのちのぬくもり、尊さ」や「自然環境の大切さ」などを学ぶ大切な機会でもある。

また、「ふれあい」は、飼育・展示生物にとどまらず、人と人の「ふれあい」を演出する仕組みを創ることも重要な使命であり、このことは、合併地域の一体感の醸成に寄与するものでもある。

第5 施設管理方針

1 管理対象施設

本事業において管理する施設は次のとおりである。

(1) 新水族館

位置：廿日市市宮島町10番地3

区 分	規 模
延床面積	6,018.86㎡
規模・構造	本館及び海獣棟：RC造2階建て 観覧プール：RC造一部鉄骨造平屋建て はつこい庵：鉄骨造平屋建て (令和3年8月1日オープン)
飼育生物数	380種 15,000点 以上
管理水量	1,873t

(2) 畜養施設

位置：廿日市市宮島町1170-2

区 分	規 模
延床面積	541.16㎡
規模・構造	鉄骨造・平屋建て
管理水量	141.90t

2 名称等

正式名称は、旧水族館の名称を引き継ぎ「宮島水族館」とする。

なお、より親しみやすい水族館づくりのためにも呼称（愛称）を定めることとし、これについては、市民・利用者から募集した結果「みやじマリン」に決定した。

また、新水族館のロゴマークについても、呼称（愛称）と同様に募集した。

3 営業日及び営業時間

(1) 営業日：毎年、12月26日から12月30日までを除く毎日とする。

(2) 営業時間：午前9時から午後5時までとする。ただし、繁忙期や多客時などにおいては、開館時間の延長や夜の水族館の実施など、利用者のニーズに応じた柔軟な対応を図るものとする。なお、最終入館時間は、閉館時間の1時間前とする。

4 入館料等

入館料は、施設のランニングコストを意識しながらも、低廉で利用しやすい入館料とすることが必要である。また、年間パスポートの導入などによるリピーター確保、団体利用への割引制度など、多様な利用形態に対応する料金メニューを設定することも望まれるところである。これらのことを踏まえ、入館料等を次のとおり設定するものとする。

(1) 入館料

区 分	個 人	団 体	
		20人以上	学校利用
一般(高校生含む)	1,420円	1,140円	高校生：570円
中学生・小学生	710円	570円	中学生：490円
			小学生：350円
幼 児	400円	320円	280円

(令和元年10月1日改定)

(2) 減免

対 象 者	減免の範囲
ア 身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳・療養手帳の交付を受けた者	2分の1
イ 身体障がい者援護施設、知的障がい者援護施設、精神科病院、障がい児施設支援を供与している施設へ入所・通院する者	2分の1
ウ 上記のア・イの対象者の同伴者	全 額
エ 教育課程に基づく教育活動のための生徒・児童・幼児を引率する教職員又は職員	全 額
オ その他市長が特に必要と認めた場合	一部又は全額

(平成23年8月1日改定)

(平成24年4月1日改定)

(3) 年間パスポート

新たなサービス提供として実施し、利用促進を図る。

	大人・高校生	中・小学生	幼 児
年間パスポート料金	3,560円	1,730円	1,010円

(令和元年10月1日改定)

5 入館者数の予測

PFIによる水族館整備事業を進めるに当たっての入館者数の予測については、旧水族館の入館者数実績から予測した、初年度の70万人から20年目の28万7千人へと減少する、20年間のトータルで900万人を基本としてきたところである。

しかし、新水族館が将来にありたい姿とする「瀬戸内海、そして世界遺産と共生する水族館」と、将来にわたる健全経営を目指す上においては、この実績をなぞる予測ではなく、経営目標とする新たな入館者数の予測が必要である。

そこで、新水族館が経営目標とする入館者数として、年間50万人、20年間で1,000万人を設定し、水族館運営に携わる全ての関係者は、個々のモチベーションを維持、向上させ、魅力あるサービスの提供を行い、経営目標とする入館者数の達成に向けた運営に努めることとする。

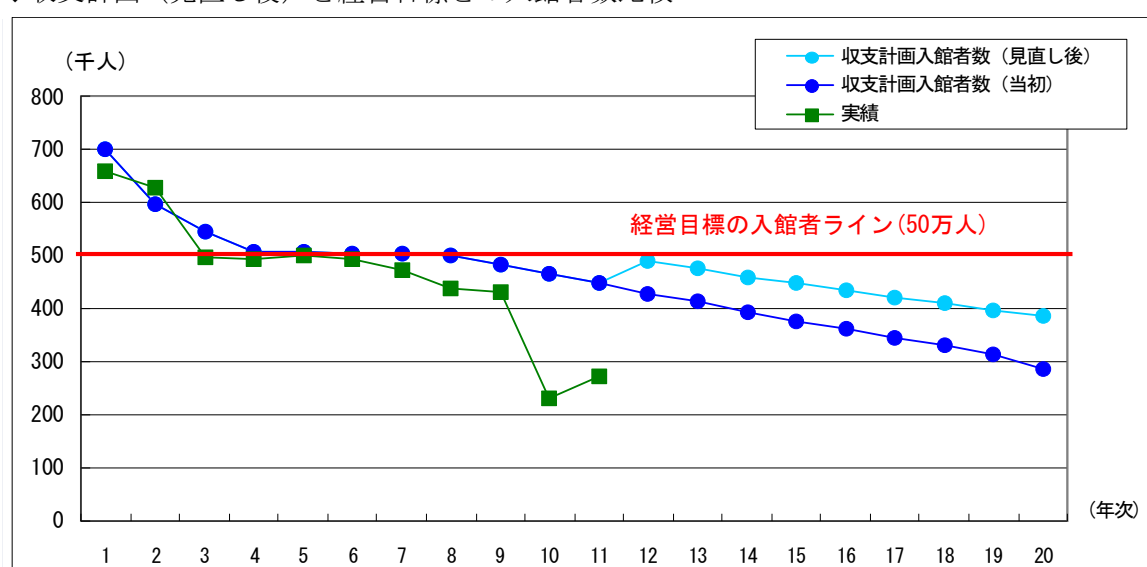
◆予測入館者数

(単位：千人)

事業年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
収支計画	700	595	543	508	506	504	502	501	482	464	447
(実績)	(660)	(626)	(498)	(492)	(501)	(493)	(472)	(438)	(431)	(231)	(273)
事業年	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計	
収支計画	429	412	394	377	361	345	329	314	287	9,000	
見直し後※	488	474	460	447	434	421	409	397	386	9,031	

※はつこい庵オープン（令和3年8月1日）に伴い、12年目以降は予測入館者数を見直し

◆収支計画（見直し後）と経営目標との入館者数比較



6 入館管理

- (1) 一般の入館は、自動改札による一元管理とする。
- (2) 再入館システムを導入する。再入館は、人的対応により入館させる。
- (3) 団体受付等を行うための出札窓口及び団体専用入館口を設け、人的対応による一括入場とする。
- (4) 自動券売機における入館券種データにより入館管理を行う。また、自動券売機によらない入館券種データは別途入力により対応する。なお、自動券売機は令和5年度に更新予定である。

7 収支計画

P F I 事業期間及び起債償還期間である 15 年間の収支計画は、次のとおり。

なお、11 年目（令和 3 年度）までは決算値で置き換え、12 年目（令和 4 年度）以降は、はつこい庵オープン（令和 3 年 8 月 1 日）に伴い収支計画を見直した。

（単位：千円）

項 目	事業年															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
	H23決算	H24決算	H25決算	H26決算	H27決算	H28決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4	R5	R6	R7	
収 入	入館料	754,063	685,947	543,063	501,785	502,565	491,803	471,026	431,710	431,883	237,200	276,163	494,344	480,162	465,980	452,811
	駐車場使用料	56,134	58,691	54,463	48,283	45,821	49,177	49,366	47,379	45,318	29,837	31,530	45,000	45,000	45,000	45,000
	財産収入	37,442	36,749	33,951	32,587	34,687	34,470	33,064	29,940	34,903	11,572	18,860	36,017	35,190	34,325	33,532
	交付税措置		294,671	292,161	289,548	286,870	284,239	281,586	278,913	276,156	277,637	290,675	56,218	56,238	56,066	55,903
	基金繰入（整備、改修）										51,616					250,000
	市債	3,840,300									276,900	506,700				
	その他	397,627	280,854	54,588	63,868	53,389	39,403	25,743	5,321	648	991	51,348	13,685	315	315	315
	計 （うち翌年度繰越財源）	5,085,566	1,356,912	978,226	936,071	923,332	899,092	860,785	793,263	788,908	885,753	1,175,276	645,264	616,905	601,686	837,561
支 出	一般管理費	742,672	756,000	415,586	382,025	398,787	393,706	392,183	393,481	379,302	367,100	389,848	365,016	418,425	387,363	386,330
	施設管理費	4,219,150	114,778	72,954	74,034	63,102	62,063	62,085	61,834	48,751	49,456	50,100	49,918	39,894	41,094	39,894
	駐車場管理費	13,854	13,127	13,178	14,149	13,279	12,720	13,100	13,060	13,152	13,341	16,363	13,566	13,566	13,566	13,566
	水族館整備・改修費									8	297,400	537,816				250,000
	基金利子積立金		2,168	3,727	3,759	3,811	3,702	3,334	2,838	2,268	1,620	541	49	113	140	175
	公債費	8,820	421,379	417,793	414,073	410,247	406,488	402,699	398,736	394,949	391,170	415,253	80,316	80,342	80,096	79,864
	計	4,984,496	1,307,452	923,238	888,040	889,226	878,679	873,401	869,949	838,430	1,120,087	1,409,921	508,865	552,340	522,259	769,829
収 支	単年	101,070	49,460	54,988	48,031	34,106	20,413	-12,616	-76,686	-49,522	-265,450	-234,645	136,399	64,565	79,427	67,732
	累計	101,070	150,530	205,518	253,549	287,655	308,068	295,452	218,766	169,244	-96,206	-330,851	-194,452	-129,887	-50,460	17,272

第6 運営

新水族館の維持管理部門はPFIの業務範囲としてPFI事業者がオープン後15年間にわたって実施することとなっている。一方、運営部門は市の直営により実施することとしているものの、その方式には直営のほか、公益財団法人、指定管理者などが考えられるが、いずれの方式を執るにしても、館としての魅力アップや良質なサービスの提供はもちろんのこと、積極的な広報宣伝活動など、集客、安定経営も意識した運営が行なわれる必要がある。

運営方式のいずれにも、メリット、デメリットは存在するところであり、運営検討委員会での検討を踏まえ、次のとおり決定する。

1 基本方針

新水族館の運営方式は、直営方式とする。

ただし、将来にわたって健全で安定した経営を継続するため、また、入館者のニーズや社会情勢など、水族館を取り巻く環境の変化に対し、迅速かつ柔軟な対応が可能な体制を引き続き検討する。

2 運営組織

運営に関する組織は、水族館運営をリードする館長以下、管理部門、広報・営業部門、飼育部門を設置し、それぞれに職員を配置する。また、博物館相当施設として、飼育部門に水生生物の専門的知識を有する学芸員を配置する。

なお、日々変化する、入館者のニーズや社会情勢などへ対応するため、水族館には出来る限りの権限を持たせ、迅速な判断と対応が可能な組織とする。

さらに、「将来にありたい姿」「経営目標とする入館者数」「健全で安定した経営」の達成に欠かせない要素であるマーケティングに関する専門的知識を有する人材の調達及び組織を構築する。

(1) 館長

水族館運営に関し、飼育に関する高い専門性と経営的感覚の両面を持ち合わせ、リーダーシップを発揮して、総合的なマネジメントができる人材を配置するものとし、外部登用も検討するものとする。

(2) 管理部門

管理部門は次の事務を行うものとする。

- ア 庶務
- イ 財政
- ウ 会計
- エ 案内
- オ 総合調整
- カ 宮島口駐車場の管理

(3) 広報・営業部門

広報・営業部門は次の事務を行うものとする。

- ア 広報・営業
- イ 広告宣伝
- ウ 印刷物の管理
- エ ホームページの管理
- オ 報道対応

(4) 飼育部門

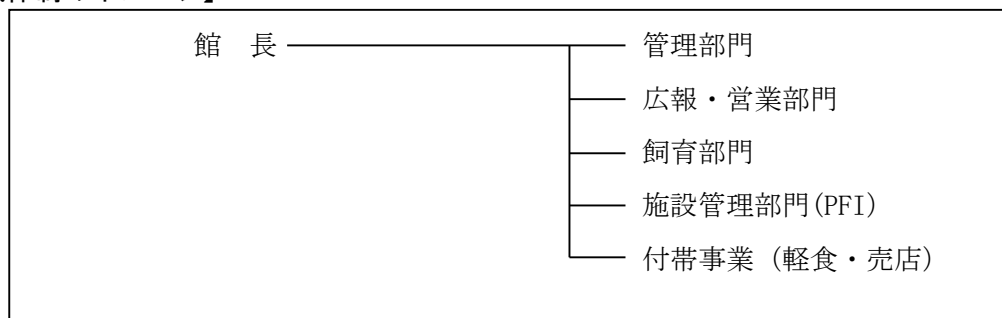
飼育部門は次の事務を行うものとする。

- ア 生物の飼育及び展示（常設展示・特別展示・企画展示）
- イ 生物の調査・研究活動
- ウ 生物及び自然環境の保護活動
- エ 飼育・展示設備の運転操作
- オ 飼育・展示環境の維持
- カ 飼育・展示生物の採取・購入・交換
- キ 展示の企画立案・運営
- ク 教育・学習プログラムの企画・運営
- ケ 研修生等の受け入れ及び教育
- コ 入館者との交流活動
- サ ボランティアとの連携
- シ 資料の管理
- ス 畜養施設の保守管理
- セ 車両の保守管理
- ソ 備品の保守管理
- タ 日動水等各種団体との連携

(5) 施設管理部門（PFI）

- ア 水族館維持管理業務
- イ 宮島口駐車場維持管理・運營業務

【組織体制のイメージ】



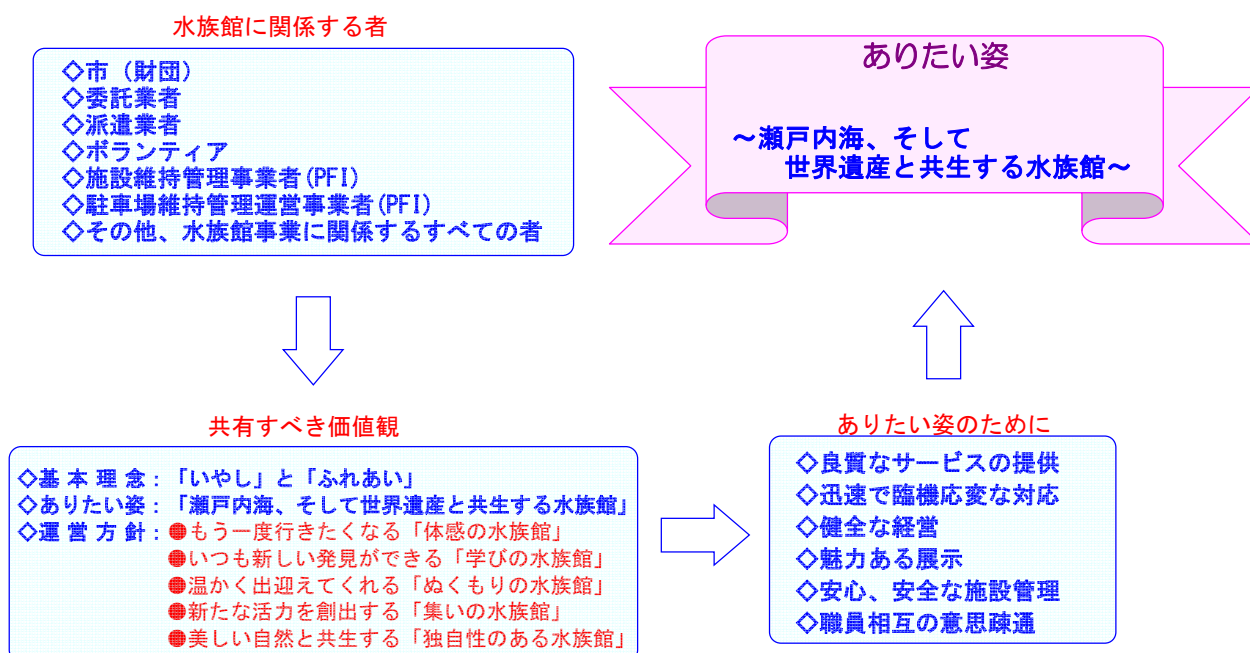
3 円滑な運営体制の構築

新水族館の運営は、管理部門、広報・営業部門、飼育部門、施設管理部門（PFI）、付帯事業（軽食・売店）から構成され、市職員、委託職員、派遣職員、PFI事業者等、いろいろな雇用形態の職員が混在する。

新水族館成功の要因は、各部門におけるすべての業務が有機的に機能することが重要であり、また、新水族館の運営に関連するすべての者が「基本理念」「将来にありたい姿」「運営方針」を共有し、良好な信頼関係のもとで、水族館を訪れるすべての人に質の高いサービスを通して最高の感動と共感の場を提供することにある。

このことを実現させるための方策として、市、委託業者、派遣業者、PFI事業者など、それぞれの責任者からなる連絡会議の形態を組織し、円滑な運営に努めることとする。

<新水族館の運営イメージ>



4 業務の分担

新水族館の維持管理、運営における業務と、その実施主体は、概ね次のとおりである。

なお、実施主体を市及び市以外の2区分としているが、特に、飼育部門における市の業務には、調査・研究機関、大学、ボランティア（市民参画）などが、協働による実施主体として、市の区分に加わる。この他にも、運営における様々な場面において、市が行う業務へのサポート役となる主体が存在するものである。

協働する主体が行う業務の概要は、「第7 連携・協働」に示すが、具体的な業務内容については、その場面に応じて、それぞれの主体との協議により決定する。

施設区分	部門区分	業務と実施主体	
		市	市以外
水族館	管理部門	管理事務	会計事務 出札事務 案内事務
	広報・営業部門	広報事務 営業事務	
	飼育部門	調査・研究事務 教育・学習事務 展示の企画立案事務 飼育展示設備の運転操作	魚類の飼育・展示業務 海獣類の飼育・展示業務 ライブ業務
	施設管理部門（PFI）		維持管理業務（PFI）
	付帯事業（軽食・売店）		軽食コーナー 売店コーナー
駐車場			維持管理業務（PFI） 運營業務（PFI）

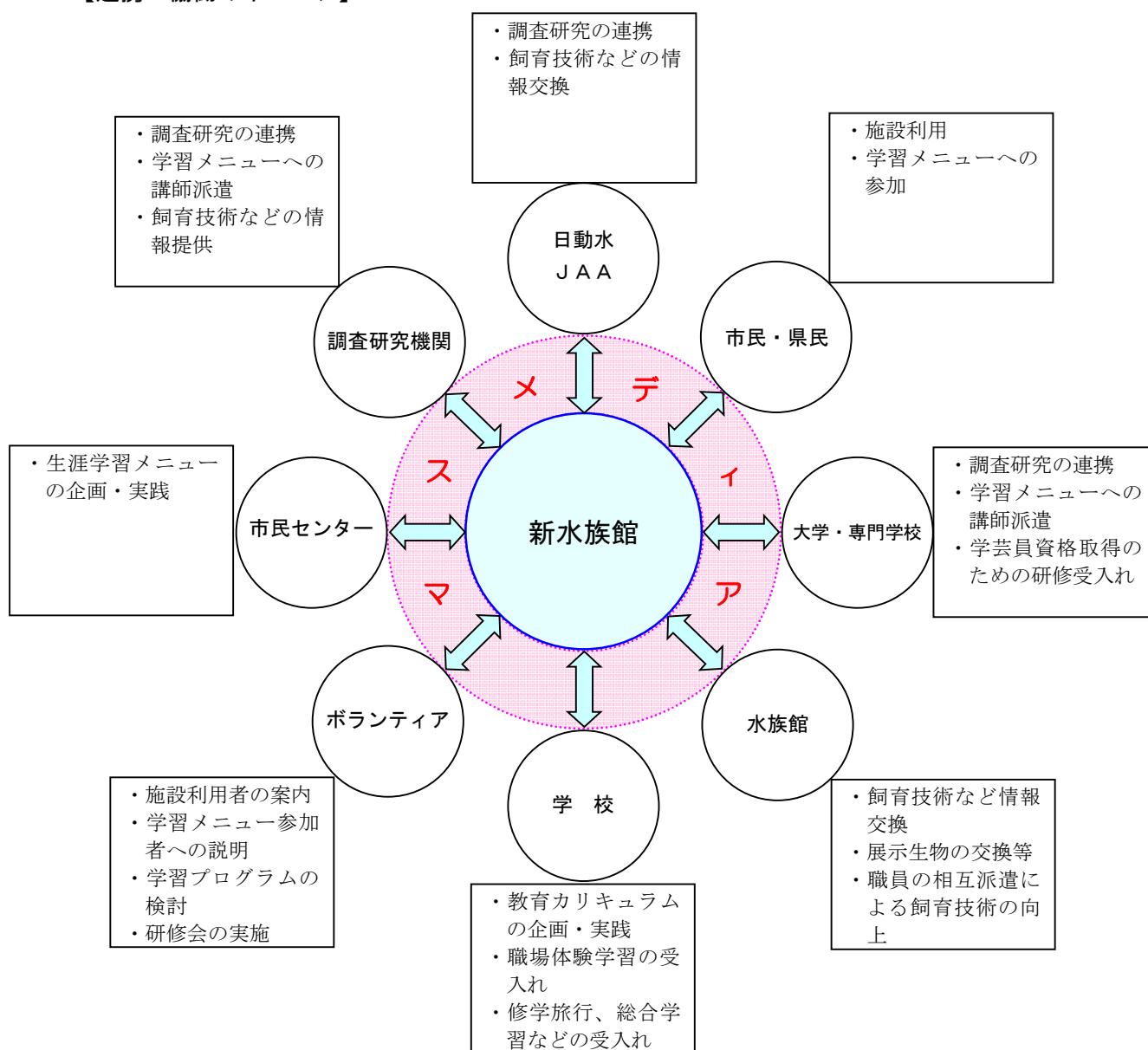
第7 連携・協働

水族館の維持管理、運営部門それぞれの事業主体の連携はもちろんのこと、日動水や一般社団法人日本水族館協会（以下「JAA」という。）、地域の学校や市民センターをはじめ、宮島を舞台に活躍するボランティア団体、国や県の調査・研究機関、大学、専門学校、他の水族館など、多様な主体と積極的に連携・協働する。

また、新聞、テレビなどのマスメディアとの連携により、水族館に関する情報、水族館と関係機関との連携・協働の取組状況などを広く伝えることも行う。

それぞれの主体がそれぞれの役割を全うすることで、新水族館が将来にめざすありたい姿「瀬戸内海、そして世界遺産と共生する水族館」の実現が可能になると考える。

【連携・協働のイメージ】



第8 具体的取組

1 展示計画

(1) 展示の基本方針

新水族館は、瀬戸内海国立公園内にある水族館として、瀬戸内海の自然、特色を広く伝える使命を持っていることから、展示は瀬戸内海を中心とした構成とする。

また、いわゆる目玉的な展示は取り入れず、見せ方を工夫することにより、将来に継続可能な「魅力ある展示」を実現させることを目標とし、これまでの見せる展示から、参加体験型展示への転換を図り、基本理念で掲げた「ふれあい」を実践することとする。

水族展示のあり方として、新水族館は次の考え方を基本とする。

ア 水生生物の普段の暮らしから、産卵、孵化、子育てなど生き物の生活史を見せる展示

イ 利用者の主体的な動作を引き出し、冒険、探検、そして発見する喜びを与える展示

ウ 生き物、自然、人（スタッフ、来館者同士）など、様々な意味でのふれあいを大切に
した展示

エ 身近な展示テーマの設定、わかりやすい展示方法など、来館者の視線を重視することはもちろんのこと、飼育員や飼育・展示生物の視線など、普段の観覧では見ることのできない様々な視線による観覧が可能な展示

オ 展示生物を容易に変更することができるコーナーを複数備え、訪れるたびに新しい発見ができ、リピーターを飽きさせない、また訪れたい展示

(2) ゾーニング計画

飼育・展示生物の展示は、大きくは、次の4つのゾーンで構成する。

ア 「宮島・瀬戸内海ゾーン」

瀬戸内海国立公園、世界遺産のある島・宮島という立地を踏まえ、宮島・瀬戸内海にスポットをあてた独自性の高い水族展示を提供する。

イ 「企画・体験ゾーン」

県民の生涯学習機能を考慮し、宮島・瀬戸内海を超えた幅広い水族を紹介し、常に新しい発見や出会いを提供する。

ウ 「ふれあいゾーン」

様々な海獣の生態観察やペンギン等との直接的なふれあいを提供する。

エ 「はつこい庵」

日本的な優雅さや美しさを空間化し、居心地の良さを提供する。

(3) 展示項目

各展示ゾーンにおける具体的な展示内容は次のとおりである。

【展示項目】

導入ゾーン

世界文化遺産コーナー 厳島神社と宮島の自然

宮島・瀬戸内海ゾーン

宮島の干潟コーナー 干潟
 アマモ場

瀬戸の海コーナー カキイカダ
 瀬戸内海の小型生物
 瀬戸内海、夜の神秘
 ゆったり水槽
～瀬戸の海から外海へ～

希少生物コーナー 瀬戸内海の鯨類と食性
 生きた化石 カブトガニ
 瀬戸の里山

企画・体験ゾーン

生き物のからだと暮らしコーナー サンゴ礁に暮らす魚
 生き物たちの〈衣〉
 生き物たちの〈食〉
 生き物たちの〈住〉
 その他の生き物たち
 ゆらぎ〈クラゲ〉

企画展示コーナー 特別展

学習・体感コーナー タッチングプール・ラボステーション
 生態実験
 レクチャールーム

ふれあいゾーン

ライブコーナー 観覧プール

海獣コーナー トド・アザラシ
 カワウソ
 ペンギン
 アシカ

ふれあいコーナー ふれあい広場

はつこい庵

灯笼門

入口

水紋鏡

水盤・吊水槽

山紫水明

水中庭園

四季池畔

屏風

百花繚乱

格子水槽

登竜門

鯉の滝登り

臙膈臍

オットセイ

ふれあい処

ふれあいコーナー

導入ゾーン（無料ゾーン）

■世界文化遺産コーナー

□巖島神社と宮島の自然

- 狙い ▶世界文化遺産「巖島神社」は海上建築としての巖島神社だけでなく、前面の海と背後の弥山原始林から構成されている。その地にある水族館として、「巖島神社」だけでなく、前面の「瀬戸内海」や背後の「弥山原始林」などの自然環境を紹介する。

宮島・瀬戸内海ゾーン

■宮島の干潟コーナー

□干潟

- 狙い ▶巖島神社大鳥居周辺の干潟を取り上げる。
▶広大な干潟を生み出す瀬戸内海の大きな干満差と、豊富な生物相を生み出すとともに、海の浄化作用に大きくかかわる干潟の重要性を伝える。
- 生物 ハクセンシオマネキ（希少種）、カニ・エビ類、ハゼ類、貝類

□アマモ場

- 狙い ▶海のゆりかごとも呼ばれるアマモ場と、そこに暮らす小型の水生生物を展示する。
▶産卵や稚魚の隠れ場所、台風などで荒れた海況では魚たちの避難場所となるアマモの役割を紹介する。
▶海藻とは異なる植物としてのアマモや水質浄化についてもふれる。
▶アマモが水中でゆらぐ姿を見せることで「いやし」を演出する。
- 生物 アマモ、アミメハギ、ヨウジウオ、タツノオトシゴ、クサフグ、ウミタナゴ、ヒトデ、ケヤリムシなど

■瀬戸の海コーナー

□カキイカダ

- 狙い ▶広島を代表する海の風景として、カキイカダを展示する。
▶水族館前面の海に設置されているカキイカダと、それにぶら下がる垂下連のカキ(生

体)に小魚が集まる様子を、海上、海中の両面から間近に見せる。

➤自然と調和した人工造形物のひとつであるカキイカダ（カキ養殖）を通して、瀬戸内海に豊富なプランクトンがカキの成育に欠かせないことや人と海の付き合い方、カキの生態文化を紹介する展示を設ける。

○生物 マガキ、メバル、マダイ、チダイ、クロダイ、スズキ、メナダ、ウマヅラハギなど

□瀬戸内海の小型生物

○狙い ➤大型の水槽では展示できない瀬戸内海に生息する小型の水生生物を、大きさ、形状に変化を持たせた小型水槽で展示する。

○生物 シャコ、カエルウオ、ウミウシ、フジツボ、ウミサボテン、ウニなど

□瀬戸内海、夜の神秘

○狙い ➤暗いところで見ると美しさが際立つ瀬戸内海の生き物を展示する。

➤暗い海底で直立するタチウオを中心に、季節に応じた夜行性・発光性生物などを紹介する。

○生物 タチウオ、コノシロ、アナゴ、サッパ、イカ、ウミホタル、ウミサボテン、ヒイラギなど（季節により展示生物を変更）

□ゆったり水槽 ～瀬戸の海から外海へ～

○狙い ➤水族館のメイン水槽として位置づけ、水中に入った感覚で水槽内を見ることができ、構造とし、「いやし」を感じる展示とする。

➤この水槽では、外海につながる瀬戸内海に生息する、日常見かける生き物から、瀬戸内海にもこんな魚もいるのかと驚くような珍しい魚種を含め、瀬戸内海に生息する多種多様な生き物との出会いを通して、外海とのつながりなどを紹介する。

➤水槽底部に岩場や砂地の演出を行い、上部から光をあてるなど、大型水槽内部に自然環境を再現する。

➤生物が棲むべき場所に棲むという自然の摂理、生物の生態をゆったりとした大きな水槽の中で表現する。

○生物 群 れ：マイワシ、キビナゴ、ウメイロ、タカサゴ、タカベなど

回遊魚：コガネシマアジ、カスミアジ、ギンガメアジ、スギなど

中層魚：フエダイ、バラフエダイ、コロダイ、コショウダイなど

岩礁魚：コブダイ、タマカイ、ヤイトハタ、アカハタ、ウツボなど

潜む魚：アカマツカサ、アヤメエビス、ヒメジ、オオニベなど

板鰓類：ドチザメ、ネコザメ、マダラトビエイ、ナルトビエイ、マダラエイ、
アカエイ、ウミガメ類など

■希少生物コーナー

□瀬戸内海の鯨類と食性

- 狙い ▶瀬戸内海に生息する希少生物であり、宮島水族館のマスコットでもあるスナメリの愛らしさをゆっくり見て日常を忘れ「いやされる」コーナーとする。
- ▶水槽内に空気柱や空気球を作り、スナメリの多様な行動性を引き出す。
- ▶子育ての様子や研究成果の公開などにより、水族館がスナメリの調査・研究、繁殖などに積極的に取り組み、保護活動を行っていることを来館者にアピールしていく。
- ▶スナメリの捕食魚類の飼育・展示に併せ、かつて広島ではスナメリが捕食魚類を追う習性を利用した漁が行われていたことなども紹介する。
- ▶飼育水槽内で、スナメリの出産や子育ての様子を見せることにより、命の大切さ、尊さ、親子の愛情などを伝える。

○生物 スナメリ（4頭）、捕食魚類（イカナゴ、アジ、マイワシ、カタクチイワシなど）

□生きた化石 カブトガニ

- 狙い ▶生きた化石といわれ、日本では瀬戸内海、九州北岸にしか生息していないカブトガニを展示し、環境保護を訴える。
- ▶カブトガニの生息環境を水槽内に再現し、現在のところ成功例のない繁殖に取り組み、種の保存に向けた活動を行う。

○生物 カブトガニ、カレイ、キュウセン、キスなど

□瀬戸の里山

- 狙い ▶広島県の里山の風景を再現した展示環境と、瀬戸内海に注ぐ川の上流、中流、下流、河口の汽水域までの風景を自然観あふれる展示環境の中で、それぞれに生息する水生生物を紹介する。
- ▶絶滅の恐れのある希少生物を中心に展示し、環境保護の大切さを伝える。
- ▶種の保存を目的として、飼育・展示する希少生物の繁殖に取り組むと共に、その研究成果をアピールしていく。
- ▶里山における人間と自然の共生を考える環境学習の教材としての役割を担う。

▶自然採光などを利用することにより、より本物に近い展示環境を再現する。

- 生物 オオサンショウウオ、ゴギ、アマゴ、アカザ、オヤニラミ、スイゲンゼニタナゴ、メダカ、ニッポンバラタナゴ、オイカワ、イシドジョウ、ホタルなど

企画・体験ゾーン

■生き物のからだと暮らしコーナー

□サンゴ礁に暮らす魚

- 狙い ▶このコーナーのプロローグとして、コーラルフィッシュの〈衣〉〈食〉〈住〉が集約されているサンゴ礁の魚を紹介する。
 - ▶魚類の色鮮やかな体色が、サンゴ礁の中ではカモフラージュの効果があることやチョウチョウウオ類の尖った口先が、餌であるサンゴのポリプを啄ばむのに適していることなどを紹介する。
 - ▶入り組んだサンゴ礁が、コーラルフィッシュの餌となる小型のエビなど小生物を生み出すことや、隠れ場、繁殖の場になることを知らせる。
- 生物 チョウチョウウオ類、ヤッコ類、スズメダイ類など

□生き物たちの〈衣〉、〈食〉、〈住〉、その他の生き物たち

- 狙い ▶生物が長い進化の過程で獲得した、生息環境に適した容姿、食物の選択、生活の場を「生き物たちの〈衣〉〈食〉〈住〉」という切り口で紹介していく。
 - ▶生物の姿、形、色の意味（生活環境への適応）、食の意味（何を食べるのか、餌の取り方）、住処の意味（底棲、回遊、共生、寄生）を伝える展示を行う。
 - ▶なぜ、こんな動きをするのだろうか？なぜ、こんな姿、形、色なんだろうか？などの疑問を、一步踏み込んだ目線で解説し、生物についての不思議を理解してもらう。
 - ▶人間の生活とオーバーラップさせた生態の擬人化により親しみを感じさせ、心理的ふれあい効果を高める。
 - ▶生き物は企画展的に入れ替えていく。
- 生物 〈衣〉：リーフフィッシュ、オニダルマオコゼなど
〈食〉：ヘコアユ、オオカミウオ、ピラニア、ヒトデなど
〈住〉：サンゴ類、タカアシガニ、クマノミ、ガーデンイールなど
〈他〉：ハリセンボン、シーポニー、トラフグ、イセエビなど

□ゆらぎ〈クラゲ〉

- 狙い ▶生き物のからだと暮らしゾーンのエピローグとして、骨のない体を持つクラゲを紹介する。
 - ▶その暮らしを紹介するとともに、クラゲの浮遊感（ゆらぎ）や透明感、美しい形などを照明効果を用いながら「いやし」を感じる展示とする。
- 生物 ミズクラゲ、タコクラゲ、アカクラゲなど

■企画展示コーナー

□特別展

- 狙い ▶その都度テーマを決めて水生生物を展示し、水族館にいつ来ても、楽しい、珍しい、新しい発見があるようにする。
 - ▶リピーター対応に大きな役割を果たす展示とする。
 - ▶多様な特別展に対応していくため、フレキシブルに活用しやすい水槽を用意する。

■学習・体感コーナー

□タッチングプール・ラボステーション

- 狙い ▶磯の生物を間近に観察したり触れたりできる、ラボ機能を持った、多様な視点での観察も可能なタッチングプールを室内に設置する。
 - ▶生物との直接的な「ふれあい」を通して、様々な生き物の生態や能力を楽しく学ぶ。
 - ▶ラボ機能を活用し、定期的に生態実験や水生生物等の解説講座を、職員等との対面による直接の対話形式（ふれあい）により行う。
 - ▶実験・講座の内容は、日替わりまたは季節限定とする。
- 生物 ウニ、ヒトデ、ナマコ、カレイ、ハゼ、エビ類など

□生態実験

- 狙い ▶生物の能力を楽しいショー形式で伝える生態展示水槽を設置する。
 - 【例1】：テッポウウオのシューティング
当館が日本で最初に手がけた生態展示を継承し、新しい見せ方で他施設にはない独自の魅力を創出する。
 - 【例2】：マダイのダンス
魚の条件反射を利用。特定の光色で反応するマダイを、音と光の演出に合

わせてダンスをしているように見せる。

○生物 テッポウウオ、マダイなど

□レクチャールーム

○狙い ▶レクチャールームでは、自然環境保護の必要性などをテーマとした展示や、学習・教育活動を行う。

▶可動間仕切り壁で空間を分割使用できるようにする。

▶スペースの一部を企画展に利用できるように、企画展示コーナーに隣接させる。

ふれあいゾーン

■ライブコーナー

□観覧プール

○狙い ▶アシカの様々な能力をプール及びステージにおいて、楽しいショー形式で見せる。

▶動物との距離間を感じさせない参加型のステージを整備し、海獣とのふれあいによる「いやし」を楽しんでもらう。

○生物 カリフォルニアアシカ（3頭）、オタリア（3頭）

■海獣コーナー

□トド・アザラシ

○狙い ▶トド・ゴマフアザラシを混養飼育し、トドの迫力とアザラシのかわいらしさを間近で観察できるようにする。

▶生態展示として、水上や陸上の様子を併せ、入水する姿や水中で勢いよく泳ぎ回る姿を真下から見せることで、「新たな発見」をしてもらう。

▶隔離兼出産用のバックヤードスペースに設置する産室のうち1室を観覧可能な構造とし、来館者が育児の様子を観察できるようにすることで、「いやし」と「いのちの尊さ」を感じてもらう。

○生物 トド（2頭）・ゴマフアザラシ（5頭）

□カワウソ

○狙い ▶カワウソのコミカルでかわいらしい動きを多角的に間近に見せる。

➤生態展示室と行動展示室の2つの展示室を設置することで、カワウソの特徴をより明確に伝える。

○生物 コツメカワウソ（4頭）

□ペンギン

○狙い ➤繁殖用水槽では、水上や陸上の様子に併せ、入水する姿や水中で勢いよく泳ぎ回る姿を真下から見るができる展示とすることで、「新たな発見」をしてもらう。

➤繁殖用水槽に飼育舎（巣穴）を20室程度設置し、子育ての様子を見せる。

➤ふれあい用水槽からふれあい広場につながる「ペンギンお散歩コース」を設定し、来館者との「ふれあい」を演出する。

➤給餌解説などを行い、ペンギンの生態を学んでもらう。

○生物 フンボルトペンギン（42羽）

□アシカ

○狙い ➤繁殖を主目的とする生態展示とする。

➤アシカの水上市や陸上での様子や、親子の様子を観察できるようにする。

➤治療兼産室用のバックヤードスペース（産室2室を含む）を設置し、産室のうち1室は来館者が観察できる構造とし、アシカの育児の様子を紹介する。

➤展示水槽内での育児が可能な場合は、出産から育児までの様子を公開する。

➤アシカショーで使用する個体を自己繁殖で補充することをめざす。

➤将来新しい飼育種を増やす場合に利用できる多目的水槽とする。

○生物 カリフォルニアアシカ（3頭）

■ふれあいコーナー

□ふれあい広場

○狙い ➤ペンギン等との直接的なふれあいや記念撮影が楽しめる総合広場とすることで、「いやしとふれあい」を演出する。

➤日頃ふれることのできない動物たち等に直接ふれることで、いのちのぬくもりや生態の特徴を伝える。

○生物 フンボルトペンギン、コツメカワウソなど

■ 灯籠門

□ 入口

- 狙い > 和のイメージとし、巖島神社や祭などを連想させ、提灯、まわり灯籠、風鈴などをモチーフとした演出を行う。

■ 水紋鏡

□ 水盤・吊水槽

- 狙い > 施設の中心に位置する水盤水槽は、従来の上からの鑑賞に加え、横・下からの鑑賞も可能とし、さらに、上から吊り下げた球体水槽で、アイキャッチ効果を高める。
> 海水魚と淡水魚を同時に展示する多目的水槽の縁にベンチを設け、LED間接照明により「いやし」の空間を演出する。
- 生物 熱帯性魚類、ニシキゴイ、キンギョなど

■ 山紫水明

□ 水中庭園

- 狙い > 水草水槽で、日本固有の水景を演出する。
- 生物 メダカ類、タナゴ類、トゲウオ類など

■ 四季池畔

□ 屏風

- 狙い > 屏風を模した水槽で、映像を投影し、四季の移り変わりを表現し、ニシキゴイと融合させることで和の美しさを演出する。
- 生物 ニシキゴイなど

■百花繚乱

□格子水槽

- 狙い ➤格子型の仕切りを設けた水槽により、複数種のキンギョの鑑賞を可能とし、架台は、宮島の町屋の特徴でもある千本格子をあしらうことで和の美しさを演出する。
- 生物 キンギョなど

■登竜門

□鯉の滝登り

- 狙い ➤入口正面に位置する4本の円柱水槽でアイキャッチ効果を高めるとともに、壁面に鯉の滝登りの映像を投影し、フォトジェニックなシーンを演出する。
- 生物 ニシキゴイなど

■膾炙膾炙

□オットセイ

- 狙い ➤中国地方の動物園・水族館で初めて導入する。
 - アシカ科としては小型の種であるミナミアメリカオットセイのかわいらしさを間近で観察できるようにする。
 - 将来的には館内散歩を行うことで、「いやし」と「ふれあい」の充実を図る。
- 生物 ミナミアメリカオットセイ（2頭）

■ふれあい処

□ふれあいコーナー

- 狙い ➤オットセイへのトレーナー体験を行えるコーナーとすることで、「いやしとふれあい」を演出する。
 - 日頃ふれることのできない動物たちに直接ふれることで、いのちのぬくもりや生態の特徴を伝える。
- 生物 ミナミアメリカオットセイ（2頭）

□ 飼育・展示概要

展 示 構 成				
ゾーン	コーナー	テーマ	展示生物等（候補）	
導入ゾーン	世界文化遺産コーナー	厳島神社と宮島の自然	瀬戸内海の自然環境と瀨山原始林に代表される宮島の自然環境	
宮島・瀬戸内海ゾーン	宮島の干潟コーナー	干潟	ハクセンシオマネキ、カニ・エビ類、ハゼ類、貝類	
		アマモ場	アマモ、アミメハギ、ヨウジウオ、タツノオトシゴ、クサフグ、ウミタナゴ、ヒトデ、ケヤリムシなど	
	瀬戸の海コーナー	カキイカダ	マガキ、メバル、マダイ、チダイ、クロダイ、スズキ、メナダ、ウマヅラハギなど	
		瀬戸内海の小型生物	シャコ、カエルウオ、ウミウシ、フジツボ、ウミサボテン、ウニなど	
		瀬戸内海、夜の神秘	タチウオ、コノシロ、アナゴ、サツパ、イカなど（季節により展示生物変更） ウミホタル、ウミサボテン、ヒイラギなど（季節により展示生物変更）	
	ゆったり水槽 ～瀬戸の海から 外海へ～	群 魚	群 魚：マイワシ、キビナゴ、ウメイロ、タカサゴ、タカベなど 回 遊 魚：コガネシマアジ、カスミアジ、ギンガメアジ、スギなど 中 層 魚：フエダイ、バラフエダイ、コロダイ、コショウダイなど 岩 礁 魚：コブダイ、タマカイ、ヤイトハタ、アカハタ、ウツボなど 潜 む 魚：アカマツカサ、アヤメエビス、ヒメジ、オオニベなど 板 鰓 類：ドチザメ、ネコザメ、マダラトビエイ、ナルトビエイ、マダラエイ、アカエイ、ウミガメ類など	
		希少生物コーナー	瀬戸内の鯨類と食性	スナメリ（4頭）（飼育水槽） （治療水槽）
				イカナゴ、アジ、マイワシ、カタクチイワシなど（食性水槽）
			生きた化石カブトガニ	カブトガニ、カレイ、キュウセン、キスなど
		瀬戸の里山	オオサンショウウオ、ゴギ、アマゴ、アカザ、オヤニラミ、スイゲンゼニタナゴ、メダカ、ニッポンバラタナゴ、オイカワ、インドジョウ、ホタルなど	
企画・体験ゾーン	生き物のからだと暮らしコーナー	サンゴ礁に暮らす魚	チョウチョウウオ類、ヤッコ類、スズメダイ類など	
		生き物たちの〈衣〉	リーフフィッシュ、オニダルマオコゼなど	
		〈食〉	ヘコアユ、オオカミウオ、ピラニア、ヒトデなど	
		〈住〉	サンゴ類、タカアシガニ、クマノミ、ガーデンイールなど	
	〈他〉	ハリセンボン、シーポニー、トラフグ、イセエビなど		
		ゆらぎ〈クラゲ〉	ミズクラゲ、タコクラゲ、アカクラゲなど	
	企画展示コーナー	特別展	その都度	
学習・体感コーナー	タッチングプール	ウニ、ヒトデ、ナマコ、カレイ、ハゼ、エビ類など		
	ラボステーション	クラゲ、メダカ、プランクトン、ウミホタルなどの講座開催		
	生態実験	テッポウウオ、マダイなど		
	レクチャールーム	水生生物や自然環境などの学習、特別展の開催など		
ふれあいゾーン	ライブコーナー	観覧プール	カリフォルニアアシカ（3頭）、オタリア（3頭）	
	海獣コーナー	トド・アザラシ	トド（2頭）、ゴマファアザラシ（5頭）	
		カワウソ	コツメカワウソ（4頭）	
		ペンギン	フンボルトペンギン（42羽）	
		アシカ	カリフォルニアアシカ（3頭）	
	ふれあいコーナー	ふれあい広場	フンボルトペンギン、コツメカワウソなど	

展 示 構 成			
ゾーン	コーナー	テーマ	展示生物等（候補）
はっこい庵	灯籠門	入口	和のイメージで、提灯、まわり灯籠、風鈴などをモチーフとした演出
	水紋鏡	水盤・吊水槽	熱帯性魚類、ニシキゴイ、キンギョなど
	山紫水明	水中庭園	メダカ類、タナゴ類、トゲウオ類など
	四季池畔	屏風	ニシキゴイなど
	百花繚乱	格子水槽	キンギョなど
	登竜門	鯉の滝登り	ニシキゴイなど
	臙肭臙	オットセイ	ミナミアメリカオットセイ（2頭）
	ふれあい処	ふれあいコーナー	ミナミアメリカオットセイ（2頭）

2 飼育・調査・研究計画

(1) 「スナメリ」の繁殖・生態等の調査・研究

「スナメリ」は、1930年広島県竹原市沖阿波島海域において国の天然記念物に指定され、その後1993年「水産資源保護法」によりその採捕も全面的に禁止された瀬戸内海を代表する鯨類である。現在では、水産庁発行の「海のレッドデータブック」やワシントン条約付属書Iにその名が掲載されるなど、その希少性、保護の重要性がますます重要視されている。

宮島水族館では、1980年からこのスナメリの飼育を始め、世界で初めて、人工飼育下における三世繁殖に成功した実績を持っている。この「スナメリ」の飼育・繁殖・調査・研究を今後も継続し、種の保存に向けた調査・研究を行う。

(2) その他海獣類、魚類の飼育・繁殖・調査・研究

「トド」や「オヤニラミ」の繁殖・生態等の調査・研究を継続して行うとともに、水族館地先の干潟生物の調査及び展示、絶滅が危惧されている生物や希少性の高い生物の保護及び繁殖なども併せて行っていく。

また、飼育においては、展示施設の収容能力、生物の年齢、血統管理など、状況に応じた飼育管理を行い、計画的な繁殖を行う。

(3) 日動水との連携

旧水族館は、日動水の会員として、全国及び中国・四国ブロックの各種会議、研究会などに参加し、情報収集、飼育・繁殖技術の向上などに努めてきたが、新水族館においても、積極的に各種会議や研究会などに参加し、日動水、他園館との連携を強化する。

また、旧水族館は、日動水の「種保存委員会」のスナメリ及びオヤニラミの種別調整者として、その役割を果たしてきた。

新水族館においても、これら希少水性生物の種の保存に向け、飼育動物の移動や国内血統登録書の管理を行うほか、繁殖計画を策定し、「繁殖検討委員」との連携により、国内での飼育個体数の増加を図る。

(4) 研究機関等との連携

旧水族館ではこれまで、広島大学、三重大学、鳥取大学、長崎大学、遠洋水産研究所、国立科学博物館等との協力や共同により、水生生物の研究を行ってきた。新水族館においても、これらの研究機関等と連携しながら、瀬戸内海とその周辺に生息する希少水性生物の生息域や生息数の調査、繁殖生態の解明、生物の行動様式・認識能力等様々な調査・研究を行っていく。

3 教育・環境学習計画

新水族館の地域特性を活かした展示や活動、調査・研究などを通して、環境保護思想及び生物保存活動の普及・啓発に積極的に取り組んでいく。

(1) 地域特性を活かした展示

- ア 前面の瀬戸内海と背後の弥山原始林の自然を通して、山と海のつながりを紹介する。
- イ 瀬戸内海に生息する希少鯨類「スナメリ」、希少淡水魚「オヤニラミ」の飼育・繁殖・調査・研究の成果及び保存活動を紹介する。
- ウ 広島県のレッドデータブックに掲載される希少生物の保存活動の普及・啓発を図る。
- エ 飼育・展示を通じて生命の大切さを伝え、動物愛護の精神の普及・啓発を図る。
- オ 参加型・体験型を基本に、環境保護の精神を楽しみながら学ぶ機会を提供する。

(2) 飼育・展示施設を活かして楽しく学ぶ参加型・体験型プログラムの充実

- ア 様々な角度から観察できる水槽展示を行い、生物の動き・表情等を間近で見せる。
- イ 「えさやり体験」を通して「いのちにふれる学び」のプログラムを実施する。
- ウ 通常では見られないバックヤードを紹介する「バックヤードツアー」を実施する。
- エ 水生生物の習性や生態の特徴を捉えた、各種実験を実施する。
- オ 五感で感じることでできるふれあい体験の場を常設し、水生生物の習性や生態への理解を深める。
- カ その他、自然環境や生物の保護活動に関する体験学習プログラムを作成し、実施する。

(3) 地域特性を活かした参加型・体験型プログラムの充実

- ア 地先のフィールドを活用した「干潟観察会」を実施する。
- イ 弥山に代表される宮島の豊かな自然を体感できる「自然観察会」を実施する。

(4) 実習、各種学習団体等の受け入れの充実

- ア 学芸員資格取得のための実習や研修生等の受け入れ、教育・指導を実施する。
- イ 修学旅行や総合学習などを受け入れ、自然環境保護に関する教育・指導を実施する。
- ウ 学校が実施する職場体験学習を受け入れ、自然や社会の現実に触れる場を提供する。
- エ 近隣の学校からの求めに応じ、自然環境保護に関する講演等を行う。
- オ 学校及び市民センター等からの求めに応じ、教育普及活動（干潟観察会等）を実施する。

(5) レクチャールームの活用

- ア 環境保護・教育活動にかかる各種企画展、学習会等を企画・運営する。
- イ 水生生物に関する、飼育・繁殖・調査・研究・保全活動等の成果を随時公開・展示する。
- ウ 利用者による「干潟観察会」などの調査成果等を展示する。

(6) ボランティアとの協働（市民参画）

- ア ボランティア団体等との協力体制により、自然環境に対する学習プログラムの開発や新たなボランティア育成に関する支援を実施する。
- イ 山や森に関する環境学習プログラムの実施は、現在宮島を活動の中心とするボランティア団体などと連携して取り組んでいく。

4 オープンに向けた取り組み

(1) コミュニケーション計画

新水族館のオープンに向けた期待感の醸成及びオープン後の利用促進を図るために、様々な媒体を活用した積極的かつ効果的な広報活動及び情報発信を行う。

ア ホームページの活用

宮島水族館ホームページに、工事の進捗状況や飼育展示生物の近況など、新水族館への期待感を醸成するための情報を定期的に提供する。

イ 広報・宣伝活動

新水族館のオープンに合わせて、新聞、テレビなどのマスメディアを活用した宣伝広告、旅行会社等との提携によるツアー商品の開発、広告代理店等との提携による大都市圏での広告宣伝などを行う。

また、イベント会社等を活用し、リニューアルオープン1年前、100日前など、各種オープニングイベントを開催して、気運の醸成を図る。

ウ 呼称（愛称）、ロゴマーク等の募集

新水族館が市民、利用者に愛着を持ってもらえるよう、愛称やロゴマーク等を公募することにより、リニューアルオープンに向けての期待感の醸成と、オープン後の施設利用の促進を図る。

エ リーフレット等の作成

新水族館の展示内容や施設機能などを解説するリーフレット等を作成し、広報宣伝活動に活用する。

(2) 飼育・展示生物の調達

入手困難な展示生物も含め、オープンの1年前から買い付け業者などへの依頼など、調達に関する準備を行い、オープン時には全ての飼育展示生物が整った状態を確保する。

また、飼育を依頼した水族館や里親に対しても、引取りについての確認、協議を行う。

(3) 学習・教育メニューの企画・作成

水族館は文化・教育施設としての役割を担う施設である。魅力あるサービスのひとつとして、見るだけでなく五感で感じることのできる、環境や水生生物に関する学習・教育メニューを企画・作成する。

--- 具体的なメニュー（案） ---

- ・ 地域ボランティアなどとの協働による干潟観察会や自然観察会
- ・ 自然とふれあうためのルールやテクニックの学習プログラム
- ・ 入館者だけでなく、公式ホームページを活用した学習プログラム
- ・ 地球温暖化による環境への影響などの環境学習プログラム
- ・ 水族館の裏方を見せるバックヤードツアー
- ・ 飼育・展示生物へのえさやり体験
- ・ 飼育・展示生物の夜の生態を見せる夜の水族館
- ・ アシカライブへの入館者の参加体験
- ・ ラボ機能を使った、水生生物の不思議発見
- ・ タッチングプールでの生き物とのふれあい
- ・ レクチャールームでの研修会やものづくり体験 など

(4) 商品開発

新水族館入館記念の一品となるよう、新水族館をイメージできる商品開発を行い、入館者に喜んでもらうための商品の充実を図る。

5 オープン後の運営に関する取り組み

(1) 学習・教育メニューの実践

4- (3) で企画・作成した学習・教育メニューの実践はもちろんのこと、新たなメニューの開発に積極的に取り組む。

こうした学習・教育メニューへの参加・体験による、知的好奇心の育成と、様々な人々との交流による仲間づくりを支援する。

また、郷土の自然や環境への理解を深めることで、郷土への愛着や誇りを育む。

(2) 企画展示、特別展示の実施

話題性や特異性、地域や季節に応じたテーマ設定など、利用者の興味を引くような企画展示、特別展示を行い、水生生物に関する学習機会の提供と入館者増を図る。

(3) 水族館教育ボランティアなどの人材育成支援

正確な説明や入館者の疑問に答えるためには、水生生物に関する正しい知識を習得することが必要であり、教育ボランティアなど協力団体の育成は重要な役割のひとつである。

当初はもとより、定期的に研修会を開催するなどして、人材育成に努める。

(4) 市民・県民の生涯学習の拠点としての役割

水生生物を題材とした各種教育普及活動を通じて、楽しく学ぶことができる学習機会を提供し、市民・県民の生涯学習への支援を図る。

(5) 学校や市民センターなど、地域活動への支援と連携強化

学校教育や市民センター活動との連携を進め、特に子ども達が水生生物への親しみや興味を持つことで、いのちの大切さや温もり、環境への関心を深める機会を提供する。

(6) 他館との連携と博物館相当施設としての役割

水族館は博物館相当施設としての位置付けがなされる中で、単なるアミューズメント施設ではなく、学術的な要素を持つ施設であることを念頭に、他館との連携を強化し、飼育技術

の向上や調査・研究テーマに基づく情報の共有、成果の積極的な発表を行う。

宮島水族館単体での調査研究では成果が期待できないものについても、国・県、大学、他館などとの連携により、積極的に取り組む。

(7) 利用者ニーズの把握

利用者が何を求めて水族館を訪れているか、水族館を訪れて何を感じたか等を、オープン当初からICT※（情報通信技術）を活用したモニタリング等により把握し、日々進化し続けることが、顧客満足度（対感度）ナンバーワンにつながる。

利用者のニーズに応じたメニューの開発、必要であれば施設改善なども行いながら、水族館としての魅力アップに努める。

※ICT：ICT（Information and Communication Technology）とは、情報・通信に関連する技術一般の総称で、IT（Information Technology）の「情報」に加えて「コミュニケーション（Communication）」（共同）性が具体的に表現されている点に特徴がある。また、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現であるといえる。

(8) 多様なふれあいの場の提供

新水族館はこれまでの「観る」から「ふれあい」に姿を変えていく必要がある。

このため、飼育・展示生物とのふれあいだけでなく、飼育員やボランティア、入館者同士など、多様なふれあいができる場面を提供する。

(9) 広報宣伝、観光客誘致

集客施設でもある水族館にとって、入館者増を図るためには、良質で魅力的なサービスを提供することはもちろんのこと、宮島水族館を広く伝えるための広報宣伝活動が非常に重要な取り組みとなる。

多くの費用を伴う広報宣伝については、費用対効果を見定めながら、より多くの人の目に触れるよう、露出度の高いものが必要である。

また、旅行代理店や広告代理店などとの提携による広報宣伝、集客活動は、経営目標とする入館者の達成には効果的な手法のひとつと考えられる。

さらに、利用者ニーズを把握するためのICT（情報通信技術）を活用したモニタリングや、年間パスポートの購入時などにおける顧客（入館者）情報の収集と、それを活用した水族館情報の発信に関するシステムを構築するとともに、そのための、人材育成、組織作りも、経営戦略の視点においては重要なポイントである。

経営目標はもちろんのこと、それを上回る入館者を獲得するためには、より具体的で積極

的な経営戦略に取り組むべきであることから、そのための体制整備について、具体的な検討を行うこととする。

このことは、より水族館経営を安定させ、入館者へのより魅力的なサービスの提供を可能にするものである。

--- 具体的なメニュー（案） ---

- ・ 旅行エージェント等への企画提案
- ・ 近隣観光施設との提携、観光客誘致、協同パンフレットの作成
- ・ 広報宣伝事業
 - i エージェント等への訪問セールスやダイレクトメール送付
 - ii テレビ・ラジオ広告
 - iii タウン誌、情報誌広告
 - iv 広告塔による広告
 - v 地域協賛広告
 - vi 観光宣伝隊による誘致活動
 - vii ホームページによる広告
 - viii 市や観光関連の協議会などの観光パンフレット等による広報
 - ix 顧客（入館者）情報の収集と水族館情報発信への活用

第9 運営方針との対比

運営方針に掲げる5本の柱と各項目の関係を整理すると、次のとおり。

	体感	学び	独自性	ぬくもり	集い
第4-1 瀬戸内海国立公園の中心にある水族館					
第4-2 文化・教育活動の場としての水族館					
第4-3 観光振興と地域経済へ貢献する水族館					
第4-4 種の保存や環境保全のための調査研究					
第4-5 環境学習・教育の場としての水族館					
第4-6 多様な主体と協働・連携する水族館					
第4-7 ふれあいといやしを提供する水族館					
第8-1-(1) 展示の基本方針ーア					
第8-1-(1) 展示の基本方針ーイ					
第8-1-(1) 展示の基本方針ーウ					
第8-1-(1) 展示の基本方針ーエ					
第8-1-(1) 展示の基本方針ーオ					
第8-1-(2) ゾーニング計画ーア「宮島・瀬戸内海ゾーン」					
第8-1-(2) ゾーニング計画ーイ「企画・体験ゾーン」					
第8-1-(2) ゾーニング計画ーウ「ふれあいゾーン」					
第8-1-(2) ゾーニング計画ーエ「はつこい庵」					
第8-2-(1) 「スナメリ」の繁殖・生態等の調査・研究					
第8-2-(2) その他海獣類、魚類の飼育・繁殖・調査・研究					
第8-4-(1) コミュニケーション計画					
第8-4-(2) 飼育・展示生物の調達					
第8-5-(1) 学習・教育メニューの実践					
第8-5-(2) 企画展示、特別展示の実施					
第8-5-(3) 水族館教育ボランティアなどの人材育成支援					
第8-5-(4) 市民・県民の生涯学習の拠点としての役割					
第8-5-(5) 学校や市民センターなど、地域活動への支援と連携強化					
第8-5-(6) 他館との連携と博物館相当施設としての役割					
第8-5-(7) 利用者ニーズの把握					
第8-5-(8) 多様なふれあいの場の提供					
第8-5-(9) 広報宣伝、観光客誘致					

■ 運営計画書策定経過 ■

- 平成21年11月9日 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営検討委員会設置
- 第1回 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営検討委員会開催
- 議事
- 1 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営検討委員会設置要綱の概要説明
 - 2 委員長選任
 - 3 廿日市市新宮島水族館（仮称）整備事業の経緯について
 - 4 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営計画書（案）の概要説明及び内容検討
- 平成22年1月28日 第2回 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営検討委員会開催
- 議事
- 1 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営計画書（案）の修正事項外の説明
（新旧対照表、入館者数の予測、減免規定、入館料金の設定根拠）
 - 2 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営計画書（案）の概要説明及び内容検討
- 平成22年4月30日 第3回 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営検討委員会開催
- 議事
- 1 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営計画書（案）の修正事項の説明
（新旧対照表、入館者数の予測、運営に関する連携・協働、新水族館の名称等）
 - 2 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営方式について
 - 3 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営計画書のとりまとめ
- 令和4年8月1日 はつこい庵オープン（令和3年8月1日）に伴い、廿日市市宮島水族館運営計画書の一部を改正

■ 廿日市市新宮島水族館（仮称）運営検討委員会 委員名簿 ■

	所 属 名	職名	氏 名
委員長	広島国際大学医療福祉学部	教授	吉 長 成 恭
職務代理	(財)鹿児島市水族館公社 いおワールドかごしま水族館	館 長	荻 野 洸太郎
委 員	(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所業務推進部	部 長	岸 田 達
	中国運輸局企画観光部観光地域振興課	課 長	秦 日出海
	広島県商工労働局産業振興部観光課	課 長	望 月 徹
	(社)宮島観光協会会	会 長	中 村 靖富満
	(株)ジェイティービー西日本国内商品事業部地域統括部	部 長	杉野本 憲 明
	廿日市市	副市長	永 尾 敏 昭
	廿日市市環境産業部	部 長	田 中 敏 治